

ネット社会の可能性と危険性（子供たちを守るために）

現代のネット社会は便利な社会で、いろいろなことが限りなくでき、次々に新しいことが考え出されており、いつも最新の情報を手に入れる準備が必要であるように感じる。

この社会は、一方で便利であるがゆえに、政府間や企業間でのハッキングの争いや、ドローンを使っての「ターゲットド・キリング」という、殺人や核攻撃さえも可能な時代を作ってきた。

今後の発展や規制がどうなるかはわからない。まさしく目が離せないし、世界中の人々が、監視をする必要がある時代になってしまっている。しかもその中で審議を見極める子田は、とても困難になっている。

このホームページでは、ドローン・ウォーズに関する事項は、「真実の現代史」の項の「平和論」に入れており、ここでは、子供たちのスマートフォンの悪用や依存症についての項としていくつかの書籍の紹介にとどめたい。それほど問題は深刻であり、解決の方法は、人類の存続の問題と同じくらい困難であるという認識をしている。

現代はいろいろな楽しみがある

とりわけ高価な費用も掛からないパソコンやゲームは数十年前にはなかった新しい遊びであると言えよう。そのゲームで子供や若者はいろいろなゲームをしながら生活をしている。

おかげで楽しい日々が送れるし、ストレスの解消にもなる。

しかし最近ではゲーム依存症の人間が多発している

ポケモンGOでバカげた行動をする大人たちや、それが原因で発生した交通事故などが後を絶たないことは誰でも理解している

しかし事態はもっと深刻であるように思える

学習塾の先生をしていると「子供がゲームばかりして全く勉強をしない」と言って、保護者から泣きつかれることは日常茶飯事であり、このようなネット中毒になった子供たちを救う能力は学習塾にはない。

学校に行って塾に行ってそれなりに学習はしているのだが、それ以外の時間帯ではゲームばかりしているのである。ゲームは楽しいものでなかなかやめられるものではないだろう。

パチンコやマージャンや競馬などのギャンブル依存症と同じように全くの「病氣」ともいうべきものだからである。

他方で、ゲームを作成し開発して利益を上げている人や企業はいつも「どうしたら子供たちがゲームにはまってくれるだろうか」ということに腐心している。

そのためにはどのような形で子供や人間の心をとらえていくかについての研究や開発が懸命になされていると思われる。

それがこのようなゲーム関係のビジネスの戦いの核心部分といえるかもしれない。

だから子供たちや若者、そして大人たちまでがゲームに熱中して

時間を奪われ、集中力を奪われ、お金を奪われ、そして未来への希望や可能性を奪われ、人生を奪われてしまっているのである。

他方でゲームを開発した人間や企業には富や力が蓄積していきゲームではない本当の豊かさや贅沢が楽しめる人生がまっているのである。

かくして問題は拡大し、富や知識の格差も拡大していくばかりである。

ゲームを開発している人たちは私たち凡人から見れば秀才であり傑出した才能を持っていると認めざるを得ないのであろう。

多くのコンピューターやネットを開発した人たちも同じであり、ひとまずは彼らに敬意を示す必要はあると思う。

しかし考えてほしい

彼らの本性は「子供たちからいかにお金を搾り取るか」「いかに子供たちのほかのことをさせないで熱中させるか」そして結局は「いかにして子供や若者の人生を破壊するか」を追い求め続けている愚かな人間たちばかりなのであるという批判に反論できる立場にあるのだろうか

昔、パチンコをしていた時がある

囲碁や将棋もよいと思ったがじつくりと頭を使う時間もないし能力もなかったからパチンコとマージャンしか覚えなかった

競馬などのギャンブルでは自制心に欠ける自分は「破産して首を吊ること」が予測できたので一切しなかった
パチンコでは百円単位のお金で、釘の角度やばねの強さなどを考えながら「釘師」という人間と戦いながらゲームを楽しんでいた

しかしある時からパチンコがコンピューターに操られるようになってぴったりとやめた

私の頭でコンピューターをプログラミングをするほどの優秀な頭脳に、私の頭脳で勝てるはずがないと思ったからである

それ以来相手がコンピューターの頭脳が組み込まれているゲームは一切しなくなった
機械に操られていると考えただけで無性に腹が立つからである

しかしそれ以上にコンピューターは私のような人間をもさらに引き付ける力があると思う

私のような人間も面白く集中させる力を持っている

だから私は頑固と笑われてもよいから懸命にゲームに支配されない人生を送っている

魚釣り、登山、ギター、ドライブやツーリング、スポーツ、ゴルフ、そして美食や絶景を求めての旅である
どんなにお金がかかろうともどんなに時間がかかろうとも、裏に他人が潜むコンピューターに支配された人生は送
りたくないのである

コンピューターにすべてを操られる時代の子供たちや人間には、私のような考え方や感性が身に付くこともない
のかもしれない

子供や若者、広く自制心を持たない大人たちにも「勝ち目」はないのであろう

そうはいつでも何らかの方法で子供たちの段階で子供たちを守る必要がある

「親に責任がある」「しつけに責任がある」などという意見は、コンピューターの恐ろしい力がわかっていない愚か
者の言葉であると思う

闘いの相手は天才であり秀才であり開発力もあり資金力もあり宣伝力もある個人や企業だから親も子供にも勝ち目
はないのである

規制を求めて社会的な行動を起こしても「政治力」や「宣伝力」でつぶされ妨害されるであろう

「企業の合法的な営利活動を制約することは許されない」とか「みんなゲームで楽しんでいるのであり、これが現
代という時代の娯楽である」という主張に反論はできないからである。

考えてほしい

このようなゲームに熱中する社会や人間の在り方で失われているものが一体何であるかを

動物としての人間の本性であり、生身の人間が人生の本当の楽しさを経験するという生きる価値であり

人間の尊厳であり、心の機微である

もしできることならコンピューターという「人を支配しようという頭脳集団」という恐るべき優秀な力との闘いは
早くやめてほしいと思う

不格好、不細工、危うい、きわどい、おかしなそして哀れで悲しく、そして優しく暖かい「真の」人生を取り戻

し、楽しんでほしい

早くゲームに支配される人生から離脱してほしい

そしてしっかりと広範囲の基礎的な学習をして

しっかりと実業でお金を稼いで

ヴァーチャル・リアリティーというありもしない仮想空間ではなく

真に楽しい「現実」の真の人生を楽しんでほしい

2016年11月29日(火)

志成館 館長 森 英行

コンピューターを使ったゲームの危険性に警鐘を鳴らす素晴らしい書籍や医学関係者の啓発本は多い

しかし依存症には勝てないであろう

悲観をしながらも、ネットで調べたいいくつかの書籍の表紙を張り付けたい

この問題は、私には、荷が重すぎる

ごく身近な人たちが苦しんでいるのを見ると、吐き気がして、体調が悪くなる

私は製作者側の規制と

作成したことによる利益の多くを、被害者に弁償させる社会的なシステムを、世界的規模で作る方法しかないと考えている

これらの企業は、「麻薬やアルコール依存の人間をつくっている犯罪者集団と同じである」と認識する必要があるのろうと考えているのである

もちろんこのような発想が認められるはずもないのだろうが



